

令和 8 年度第 1 回松江市公共交通利用促進市民会議

○開催日時・場所：令和 8 年 6 月 8 日（月）13：30-15：30

松江市役所本庁 5 階第 1 常任委員会室

○開会

- ・ 事務局長挨拶
- ・ 会長挨拶

○報告事項

（１）令和 7 年度事業報告・決算報告

～事務局より説明・丸山執行委員から監査報告～

（一畑バス_吉田代表取締役社長）

- ・ 4 月 1 日からの共同経営計画でバスの運行を始めたところ、状況は私の予想以上に良い結果が出ている。当初は 3 月 11 日から 4 月 1 日に向けての定期券購入の混乱を心配していたが混乱もほとんど無くスムーズな移行ができた。
- ・ 一畑バスの利用状況は、4 月 1 日から 5 月 20 日までの松江市内利用者が対前年比 106.6%で推移した。「ばけばけ効果」による観光客の増加もあり、市民の皆さんの利用までは把握していないが、非常に良い結果が出ている状況。
- ・ 収入についても 4 月 1 日から 5 月 20 日までのところで、118.3%と伸びを示しているところ。
- ・ 中東情勢の悪化による軽油については、4 社中 2 社から供給停止になり苦勞したが、6 月からは 1 社が復帰してなんとか見通しがたったところ。
- ・ 運転手不足については昨年 4 月のところで 86 名だったところ、今年 4 月には 89 名と 3 名増となっている。退職者もいるので単純な 3 名増ではない。

（交通局_小村局長）

- ・ 共同経営計画は 4 月から利便性を高めながらスタートできたと思っている。今回の共同経営計画では運賃だけでなく、路線、ダイヤ、運賃の見直しと 3 本柱で計画を立てており、共同経営計画は全国で 10 例目であるが、ここまで大がかりな見直しは例がなかった。
- ・ 1 番心配していたことは運賃の値上げがご利用者にご理解いただけるかということ、平均 117%の運賃値上げ、路線によって目的地は同じでも運賃が異なることがあったが、統一させていただいた。
- ・ 利用者の速報値として昨年度は 251 万人の利用があった一昨年は 241 万人の利用だった

ため 10 万人ほど改善している。

- ・ 今後のことですが、共同運行の目標として 3 点あげている。1 点目が運賃施策による収益性を改善することで皆様が利用していただきやすいバス事業を展開していくこと。2 点目が運転手、人員数、車両数の改善を図っていくこと、3 点目が基盤サービスの提供の維持。この 3 点を 3 年間の目標期間でどのような成果をあげることができたか、把握していかないといけないと考えている。
- ・ 燃料は公営交通の場合は入札制度のため、入札が成立しない場合は燃料を供給できなくなるが、バスを止めてはいけないということで随意契約で相手方とも協議をしながら軽油を確保している。
- ・ 「ばけばけ効果」についてはレイクラインが好調を維持しており、4 月の利用者が 1 万 5 千人、昨年 4 月が 1 万人だったので、多くの方に利用いただいている。

(広島経済大学_加藤会長)

- ・ 増加した利用者は新規なのか、共通定期になったから公共交通を利用されるようになったのか、観光客の増加はあると思うが、こういった方が利用されているのか。

⇒ (交通局_小村局長)

- ・ 利用者の動向や分析は今後必要である。
- ・ 通学をイメージすると 2 社局どちらにも乗れるというところは非常に利便性が上がったと考えている。

(連合島根東部地域協議会_丸山執行委員)

- ・ 令和 7 年度事業報告③の松江 Good Morning Project 及び市職員時差出勤普及啓発にあわせた公共交通利用の PR について、どの程度の人が参画されて、効果があったのか、数字で把握されているのか。

⇒ (事務局)

- ・ 時差出勤に取り組んだ人数を確認したところ令和 6 年 6 月から令和 7 年 3 月で 230 名あまり、令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月はおよそ 320 名と 100 名弱増加しているが、実際に公共交通を利用しているのかは分析できていないのが現状ではあるが、時差出勤の取り組み人数の増加には寄与したものと考えている。

⇒ (国土交通省中国整備局松江国道事務所_山田計画課長)

- ・ 松江 Good Morning Project は令和 2 年度から実施しており、元々は国道 9 号線の渋滞緩和として始めたもの。
- ・ 渋滞の状況は昨年度 9 月 30 日から 10 月 10 日まで 2 週間実証実験を実施、袖師や西津田交差点では交通量を 15 分単位で測っており、袖師では東行き方面（宍道湖から市街地方面）で交通量が約 400 台と 15 分単位で各時間で約 10%減少している。ある程度の効果は出ていると考えている。

(広島経済大学_加藤会長)

- ・事務局からコミュニティバスに関するご説明も触れていただければと思います。

⇒ (事務局)

- ・令和 8 年 4 月から路線の見直し、ダイヤ改正、運賃改定を行っている。4 月のコミュニティバス全体の利用は昨年度対同月比で 8.2%増加している。この 4 月には、路線バスのコミュニティバスへの転換、あるいは区間変更として、一畑バスのマリンプラザ線を島根コミュニティバスに置き換え、島根町内から乗り継ぎなしで川津バス停まで運行することとしたほか、御津コミュニティバスを全便県民会館前まで乗り入れることとして、大きな混乱はないと伺っている。
- ・各地区で利用者アンケートを進めており、島根コミュニティバスでのアンケート結果が、便利になったとの回答が 62%、変わらないが 2.4%、不便になったが 2%、未記入が 12%と非常に好意的に受け取っていただいております、順調な滑り出しであると考えている。
- ・コミュニティバス、AI デマンドバスを運行する各地区では、利用促進協議会が設置されているので、引き続き連携して、利用促進や便利な運行形態、ダイヤなどの検討、実施していきたい。

⇒ (広島経済大学_加藤会長)

- ・のるーとについて昨年 12 月の市民会議で議論があったが変更点があればお知らせいただきたい。

⇒ (事務局)

- ・運賃改定を 4 月に実施しており、200 円から 300 円に改定しているが、苦情などもなく利用者が減ったということもなく、順調な滑り出しと考えている。

○協議事項

(1) 目指すべき公共交通の姿の実現に向けて

～事務局より説明～

(2) 令和 8 年度公共交通で暮らしやすい未来を実現するプロジェクト及びワーキングの継続設置

～事務局より説明～

(3) 令和 8 年度事業計画・予算

～事務局より説明～

(広島経済大学_加藤会長)

- ・共同運行、通学フリーの導入で路線バスの利用が分散化されることで、朝の公共交通利用を促すことができるようになってきたのではないかとと思うが、その点についてご説明いただきたい。

⇒（事務局）

- ・利用実態を精査する必要があるが、元々松江市ではノーマイカー運動などの取組みを以前は行っており、時差出勤や松江 Good Morning Project は渋滞緩和に繋がるので、公共交通とは相性の良い取組みであるため、連携して取組めることをやってまいりたい。

⇒（広島経済大学_加藤会長）

- ・松江市では通年で時差出勤を実施しているのか。

⇒（事務局）

- ・通年で取得できる。交通政策課の職員も取得している。

（広島経済大学_加藤会長）

- ・島根スサノオマジックとの連携は体育館の改修が終わったので、新規や継続した取組みを検討できるというイメージを持っているのか。

⇒（事務局）

- ・昨年度は出雲市開催だったので、一畑電車と連携されたと伺っている。
- ・今年度は10月から松江市総合体育館で新シーズンが始まるので、島根スサノオマジックの担当者とも協議しているが、5月にシーズンが終わり、新シーズンに向けての話はこれから調整していくところになるので、現時点で皆様にお示しできるものはないが、JR西日本からも前向きな意見をいただいているので、第2回の市民会議では具体的な報告ができるのではないかと考えている。

（広島経済大学_加藤会長）

- ・議題3の3利便増進事業に関連して皆様のお手元に「どこでもバスブック」が配布されているので、こちらについて事務局から説明をお願いします。

⇒（事務局）

- ・時刻表については2社局でそれぞれ作成していたものをやめて、「プロジェクトゆうあい」が以前から発行していた「どこでもバスブック」、「どこでもバスマップ」を監修することで公式な時刻表として配布をしていただいている。

（広島経済大学_加藤会長）

- ・今年度の自動運転バス実証実験のスケジュール感と松江駅ターミナル再整備の整備計画の現状についてご説明をお願いします。

⇒（事務局）

- ・今年度の走行ルートや試乗会のスケジュールについては、なるべく市民の皆様には乗車いただけるスタイルを**とって**まいりたいと考えているが、現時点では検討段階のため、然るべきタイミングでご報告させていただきたい。
- ・松江駅整備検討状況については、令和5年12月に松江商工会議所と本市で検討組織を立

ち上げ、将来の松江駅のあるべき姿の検討を進めている。8 回ほど会議を開催し、令和 7 年の 11 月末に松江駅前デザイン案として 2 つの案が提出された。

- ・この 2 つの案について簡単に説明すると、1 案目がテルサをなくした状態を想定した案、2 案目がテルサを存続した状態を想定した案となっており、この提案を受け、今年度から本市ではこの 2 案の実現可能性について調査検討を進めている。
- ・調査は、2 案に共通している事項として、松江駅北側の現在地下道で横断している部分に横断歩道を復元できないかということ、また、公共交通にも関連しているバスターミナルの充実ということ、現状が非常に手狭となっており、高速バス会社、数社はターミナルへは入らず北側の道路上にバス停を設置して乗降を行っているため、構内に入れな
いか。また、松江駅には北側と南側にタクシーの乗降所があるが、これを南側に集約できないか。その他、駅前に人が集うスペースがないので広場が設置できないか。この 4 つの項目が共通している。
- ・この 4 つを検討するにあたり自動車交通量の影響調査として、現状の交通量測定を行い、例えば横断歩道を設置した場合、信号現示を変更したときにどれだけ周辺への渋滞影響が生じるのか等をシュミレーションを行うこと、また、様々な施設を限られたスペースに配置する際の配置の素案を今年度は検討を進めていく。
- ・検討を進めるにあたり、交通事業者の皆様にはヒアリングや相談をさせていただきながら、精度を高めていきたい。

(連合島根東部地域協議会__丸山執行委員)

- ・中東問題で燃料の高騰、供給に不安が生じている。
- ・公共交通を利用するにあたり環境に負荷をかけないことは以前から表に出ていた。
- ・自動化運転は非常に必要な技術であると思うが、バスや車の EV 化を進めていくことは CO2 の削減に寄与することになるので、利用促進と一体になって取組んで行く必要がある。計画の中で大きく変えてもらいたいということではなく、まちの魅力向上の中にある GX の取組みの中で重要なところとなるので、自動運転についても EV 化についても取組んでいただけるように組み込んでいけないか。

○閉会

○傍聴者数 0 人

○問い合わせ先

松江市まちづくり部交通政策課公共交通戦略室

TEL:0852-55-5884 メール:kotsu-str@city.matsue.lg.jp